



平成23年紀伊半島大水害  
(五條市大塔町辻堂地区 土石流)



平成23年紀伊半島大水害  
(川上村迫地区 国道169号寸断)



平成23年紀伊半島大水害  
(天川村坪内地区 大規模浸水)

令和8年5月下旬から

# 気象の警報が大きく変わる

特集2

## 「レベル」で避難の判断がよりわかりやすく

令和8年5月下旬(予定)から、気象台が発表する防災気象情報名に「レベル」が付記されます。この「レベル」は、災害が発生するおそれがある時に取るべき行動を示す「警戒レベル」と連動しています。大雨の季節を迎える前に、「警戒レベル」の意味と新しい「警報・注意報」の名称について知っておくことで、いざという時の行動に役立ちます。

気象庁HP  
新しい  
防災気象情報



「キキクル」では、大雨による土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度の高まりをパソコンやスマートフォンから確認できます。



スマートフォン表示イメージ



「キキクル」HPはこちら

リアルタイムな災害の危険度は「キキクル」で

防災気象情報が発表された際は、お住まいの地域の状況を、市町村からの避難情報や「キキクル」などで、こまめに確認してください。

ここで、警報等の名称に「レベル」を示すことで、災害発生時の危険度や、身を守るためにとるべき行動を、直感的に理解できるようにします。危険な場所から全員の避難が必要となる状況では「レベル4危険警報」を発表します。「レベル3警報」は、移動に時間がかかる人が、避難を開始するタイミングです。

「レベル」で確認！  
正しく知って、正しい避難を

### 警戒レベル相当情報の新たな情報体系

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮	(警戒レベルごとの) 住民がとるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
警戒レベル4までに危険な場所からかならず避難！					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避難 ルート、避難のタイミングなど)
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

変更例 旧「大雨警報」▶新「レベル3大雨警報」

警報・注意報の情報名に「レベル」が付きます

発表される警報・注意報の名称にレベルが付きます。避難行動と直結するレベルがすぐわかり、避難判断の目安が明確になります。

変更例 旧「土砂災害警戒情報」▶新「レベル4土砂災害危険警報」

「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます。危険な場所から避難が必要な状況である警戒レベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。

# 気象の警報のギモン はれるんがお答えします！



新しくできる  
危険警報って何なの？



気象庁マスコット  
キャラクター「はれるん」  
気象庁提供



危険警報は、避難が必要な警戒レベル4と同じだよ。  
この情報が発表されたら、崖の近く、川の近くなど危険な場所にいる人はすぐに安全な場所へ移動してね。



洪水の警報はどのようになるの？



「洪水警報」はなくなるんだ。  
その代わり、大和川のような大きな川は「レベル3氾濫警報」などで、その他の川は「レベル3大雨警報」などで危なくなっていることをお知らせするよ。



それなら、「レベル3大雨警報」が発表されると、近くにある川が危ないかもしれないということ？



そうだよ。この川が危なくなっているかは「洪水キキクル」で確認できるから、近くの川が「赤」や「紫」の色になっていないか確認してね。



その他に大きく変わることはあるの？



これからは崖の近くから避難が必要となる「レベル4土砂災害危険警報」を発表する可能性がある場合だけ、先に「レベル3土砂災害警報」を発表するよ。



じゃあ、「レベル3土砂災害警報」が発表された場合には、いつでも避難できるように早めに備えておく必要があるね。



そうだね。  
特に、避難に時間がかかる人(高齢者、児童などは、「レベル3」が出たら早めに避難を始めるなど時間に余裕を持って行動をしてね。

まず5段階の「警戒レベル」を正しく理解し、ハザードマップでお住まいの地域の災害リスクを知っておくことが大切です。大雨などで災害のおそれがあるときは気象台が早めにお知らせしますが、雨脚が強まってきたら「キキクル」の地図でお住まいの地域や今いる場所を確認し、警戒レベル4や3に相当する情報が発表されたときは市町村から避難情報が出ていなくても自ら避難の判断をしてください。

「今まで何も起こらなかったから大丈夫」と思わず、日頃から天気予報や気象情報に関心を持っていた方がいいと思います。



奈良地方気象台 台長  
廣尾 進さん

「もしも」に備える第一歩  
「もしも」時のために  
いまから準備しよう

近年、全国各地で大規模な自然災害が相次いでいます。奈良県は災害が少ないといわれることもあり、平成23年には紀伊半島大水害が発生しました。  
災害は、いつ起きるか分かりません。いざというときに備え、自らの身は自分で守る(自助)という意識を持つことが大切です。

- 生活必需品の備蓄
- ハザードマップで地域の災害リスクを確認
- 発生時の避難行動の想定など、できることから備えておきましょう。

ハザードマップは、地域の災害リスクや避難場所などを地図にまとめたものです。避難場所の位置や経路、途中の危険箇所、家族と連絡が取れない場合の集合場所などを、あらかじめ確認しておきましょう。



お住まいの地域のハザードマップはこちら



避難情報発令状況や避難所等開設状況は奈良県防災ポータルで!

